



学校だより

令和4年 8月29日

横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284

HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokigaoka/>



「一人ひとりがみんなたいせつ」

校長 仲川 美世子

今年も毎日気温と感染者という二つの数字が毎日気になってしまう夏休みでした。「行動制限のない夏」と言われても、自分で感染予防に努めたり暑さへの対策を立てたりしなければならず、それはそれで「制限のある」夏だったように思います。皆さん、どのように休みを過ごされたでしょうか。

この休み中に、私は児童文学作家のくすのきしげのりさんの講演を聞く機会に恵まれました。その講演のタイトルが「一人ひとりがみんなたいせつ」でした。くすのきさんがどのような思いで作品をつくられているか、絵本の読み聞かせを交えながら、その思いをお聞きすることができました。作者自らの読み聞かせは、声の調子や声と声の間の何も聞こえない間に思いがあふれているように感じられて、至福の時間でした。また、本を読むことは心の窓を開くことであり、子どもであっても大人であっても自由に作品を楽しんでほしい、作者である自分が自由に書いているのだから、ともおっしゃっていました。私はここで聞くまでわかっていなかったのですが、くすのきさんはお話を書いてはいるけれど、絵はそのお話にあった方をお願いしてかいてもらっているのだそうです。だから、絵本作家ではないのです。そういえば、道徳科の教科書に1年生では「ええところ」「ダメ」、2年生では「ともだちやもんな、ぼくら」が掲載されていますが、どれも違う方が絵をかいています。一つ一つの作品に、登場人物に、ふさわしい方を探して、時には描かれた絵にダメ出しをして、くすのきさんが思う登場人物がより絵からも読者に伝わるように考えていらっしゃるそうです。

そして、くすのきさんの作品は実はいろいろとつながっていて、「ええところ」のあいちゃんと「ともだちやもんな、ぼくら」に出てくる子どもたちは同じ小学校に通っているそうです。課題図書になったこともある「おこだでませんように」の主人公そうたくくんも同じ学校だそうです。そしてそのそうたくくんは成長して「ええたまいっちょう」に出てくるおまわりさんになっているそうです。ほかにも、くすのきさんの作品はまるで実在する町や学校の日々のできごとのようにつながっているというお話を聞き、その中に出てくる一人ひとりを本当に大切に存在させているように思いました。

それらの作品を通して、くすのきさんはかけがえのない一人ひとりの人間をみんな大切にしてほしいという思いや、大切にするとということがどういうことなのかを伝えようとしているのではないかと思います。くすのきさんの読み聞かせと温かく胸を打つお話を聞きながら、これまで自分はかけがえのない一人ひとりの存在にどこまで寄り添えていたのだろうか、本当にその人の気持ちを想像したり、置かれている状況を理解したりしようとするのができていたのだろうか、いつの間にか、固定観念や先入観を持って人と接してはいなかったのだろうか、自らを振り返ることのできた夏の日でした。